

3 不名誉な死

寝床とこのぐるりを我ら四人が囲んでいた  
司祭が傍らでひざまずき 吊いの祈りを捧げていた  
私と彼の母親は頭の方に立ち  
その花嫁はその足すがに縋って泣き崩れた  
その眼まなこはかっと見開かれていたが 5  
彼が息絶えていることは明らかだった

夜には逝いかず  
昼にも逝いかず  
明け方の薄明かりの中  
その魂は逝いった 10  
日の光も月明かりもなく  
木々がただ灰色に染まっている時だった

剣で殺されたのでも  
騎士の斧や槍で殺されたのでもなかった  
我が同胞ともはここに返って 15  
一言ひとことも発することはなかった  
私は愛する同胞ともの首に巻かれた縄を  
切り離れた

背後から襲ってきた卑怯者に  
同胞ともは剣をひと振り報いることもできなかった 20  
シデの葉に辺り一面を覆われた  
道ならぬ道  
揺れ動くクマシデの枝のため  
薄明りでは何も見えぬ道でのこと

奴らは大きな松明を掲げ 25  
我が同胞ともの両腕を縛り上げた  
フェンのサー・ジョンと  
ドロラス・ブラストのサー・ガイは  
七十人もの騎士と共に  
勇敢なるサー・ヒューを吊るし首にした 30

いま <sup>よわい</sup> 齢七十を迎え  
この髪はすっかり白くなった  
だがずっと昔の夏のある日  
フェンのサー・ジョンと対峙した  
その命を奪った刹那を思うと 35  
今も誇らしさに胸打ち震える

いま <sup>よわい</sup> 齢七十を迎え  
力はや衰えつつある  
だがずっと昔 空が雲に覆われたある日  
沼地の葦に霧立ち込める中 40  
私は家来たちと共に  
ドロラス・ブラストのサー・ガイを仕留めた

さあ 騎士たちよ  
真の騎士 忠実な騎士  
サー・ヒューに祈りを捧げてくれ 45  
彼の妻アリスのためにも祈ってくれ

(宮原牧子訳)